大林組
OBAYASHI

2023年3月期　第2四半期
決算説明会

2022年11月8日

MAKE BEYOND
つくるを拓く

① 2023年3月期業績
第2四半期実績及び通期見通し

② 2023年3月期受注高
第2四半期実績及び通期見通し

③ 「変革の実践」に向けて

2023年3月期業績
第2四半期実績

2023年3月期業績第2四半期実績 － 連結・単体PL

（単位：億円）

		連結					単体				
		2021年度 第2四半期実績 A		2022年度 第2四半期実績 B		前年実績との差異 B-A	2021年度 第2四半期実績 C		2022年度 第2四半期実績 D		前年実績との差異 D-C
完成工事高	建築	6,545		**6,620**		75	5,026		**4,913**		△ 113
	土木	1,957		**2,006**		49	1,372		**1,350**		△ 22
	計	8,502		**8,627**		124	6,399		**6,264**		△ 135
不動産事業等売上高		488		**616**		127	107		**232**		124
売上高		8,991		**9,243**		252	6,507		**6,496**		△ 10
完成工事総利益	建築	-	-	**-**	-	-	262	*5.2%*	**370**	*7.5%*	107
	土木	-	-	**-**	-	-	141	*10.3%*	**215**	*16.0%*	74
		607	*7.1%*	**803**	*9.3%*	196	403	*6.3%*	**586**	*9.4%*	182
不動産事業等総利益		124	*25.4%*	**198**	*32.2%*	74	22	*21.2%*	**103**	*44.5%*	80
売上総利益		731	*8.1%*	**1,002**	*10.8%*	270	426	*6.6%*	**689**	*10.6%*	262
販売費及び一般管理費		538	*6.0%*	**584**	*6.3%*	45	382	*5.9%*	**408**	*6.3%*	26
営業利益		192	*2.1%*	**417**	*4.5%*	224	44	*0.7%*	**281**	*4.3%*	236
経常利益		231	*2.6%*	**486**	*5.3%*	255	100	*1.5%*	**374**	*5.8%*	274
親会社株主に帰属する四半期純利益		188	*2.1%*	**384**	*4.2%*	196	106	*1.6%*	**316**	*4.9%*	210

MAKE BEYOND つくるを拓く | 4

完成工事高について

- 単体の建築土木で減少した一方、連結では、海外子会社の完成工事高の円換算額が、円安により増加しました。

利益面について

- 前年同期比で増益ですが、これは、単体建築事業において前期に大規模工事複数件で工事損失引当金を計上したことの反動増、単体土木事業では今期、追加変更等による利益増があったためです。

2023年3月期業績
通期見通し

2023年3月期業績通期見通し － 連結・単体PL

（単位：億円）

		連結					単体				
		2022年度 8月10日発表値 A		2022年度 通期見通し B		8月10日発表値との差異 B-A	2022年度 8月10日発表値 C		2022年度 通期見通し D		8月10日発表値との差異 D-C
完成工事高	建築	14,600		14,450		△ 150	10,820		10,640		△ 180
	土木	4,550		4,650		100	3,000		3,000		-
	計	19,150		19,100		△ 50	13,820		13,640		△ 180
不動産事業等売上高		1,350		1,350		-	350		400		50
売上高		20,500		20,450		△ 50	14,170		14,040		△ 130
完成工事総利益	建築	-	-	-	-	-	945	8.7%	855	8.0%	△ 90
	土木	-	-	-	-	-	415	13.8%	405	13.5%	△ 10
		1,830	9.6%	1,750	9.2%	△ 80	1,360	9.8%	1,260	9.2%	△ 100
不動産事業等総利益		360	26.7%	370	27.4%	10	130	37.1%	135	33.8%	5
売上総利益		2,190	10.7%	2,120	10.4%	△ 70	1,490	10.5%	1,395	9.9%	△ 95
販売費及び一般管理費		1,190	5.8%	1,260	6.2%	70	840	5.9%	885	6.3%	45
営業利益		1,000	4.9%	860	4.2%	△ 140	650	4.6%	510	3.6%	△ 140
経常利益		1,040	5.1%	940	4.6%	△ 100	740	5.2%	625	4.5%	△ 115
親会社株主に帰属する当期純利益		760	3.7%	710	3.5%	△ 50	575	4.1%	530	3.8%	△ 45

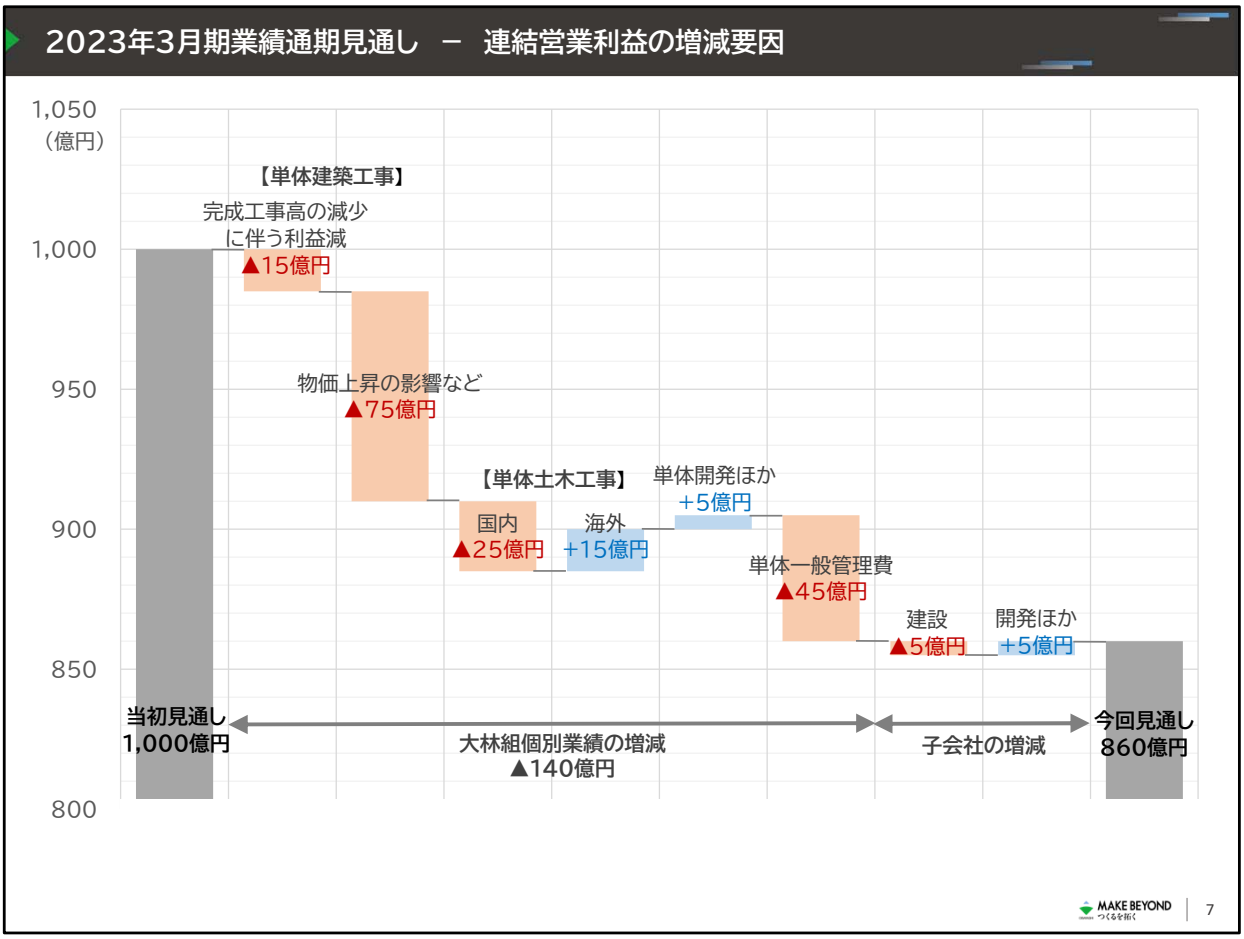
MAKE BEYOND つくるを拓く | 6

単体について

- 完成工事高の建築は1兆640億円と、従来の発表値から180億円の減となる見通しです。これは、リリースにもありますとおり、資機材の納入時期の遅れなどにより当期の工事進行割合が想定を下回る見通しであるためです。
- 完成工事総利益については、建築で855億円、土木で405億円の合わせて1,260億円を見込み、従来の発表値から100億円の減としています。これは、建設物価が当初の業績予想発表時点の想定以上に上昇しており、購買段階での対応や発注者との交渉等においてその影響の全てを吸収することが困難となったこと、並びに、建築の完成工事高の減に伴い利益が減少したためです。
- 販売費及び一般管理費についても、人材関連やデジタル関連投資が期初想定値を上回ることなどで45億円増加することから、営業利益の見通しは140億円減の510億円としております。

連結について

- 単体の修正に伴い、営業利益を従来の発表値1,000億円から860億円に140億円引き下げております。



連結営業利益見通しの変更について（増減要因別の金額を示した図）

- 利益改善に向けて、発注者との交渉を継続するとともに、購買、施工段階での原価低減等に引き続き努めてまいります。

中期経営計画2022経営指標目標の達成状況

	2022年度見通し	中期経営計画2022
■ 業績指標		
連結売上高	20,450億円	2兆円程度
連結営業利益	860億円	1,000億円以上
1株当たり当期純利益(EPS)	99.03円	100円以上
■ 健全性指標		
自己資本比率	40.1%	40%程度
■ 効率性指標		
投下資本利益率(ROIC)	4.5%	中期的に5%以上
(参考)自己当期純利益率(ROE)	7.2%	中期的に8%以上
■ 株主還元の目安		
自己資本配当率(DOE)	3.1%	3%程度

2022年度配当予想
1株につき普通配当 年42円
中間配当金、期末配当金ともに21円を予定
当初配当予想から変更なし

【2022年度見通しについて】

1株当たり当期純利益(EPS)	2022年11月7日に公表した当期純利益見通しを2022年9月末株式総数(自己株式を除く)で除した値
自己資本比率	2023年3月末自己資本額は、2022年9月末自己資本額に下期当期純利益見込み額と中間配当総額見込み額を加減算した値 2023年3月末総資産額は、2022年9月末総資産額に自己資本及び有利子負債の年間増減見込み額を加減算した値
投下資本利益率(ROIC)	実行税率を30.5%としてNOPATを算出 2023年3月末純資産額は、2022年9月末純資産額に下期当期純利益見込み額と中間配当総額見込み額を加減算した値

MAKE BEYOND つくるを拓く | 8

中期経営計画2022で設定した各経営指標の達成状況

- 連結営業利益の見通しを引き下げたことにより効率性指標はKPIを下回る見込みであるものの、他の指標については概ね達成できる見通しです。
- 2022年度の配当については、自己資本配当率3%程度で配当金を算定した結果、期初発表のとおり1株につき年間42円、中間配当金、期末配当金ともに21円を予定しております。

2023年3月期受注高
第2四半期実績及び通期見通し

2023年3月期受注高第2四半期実績及び通期見通し － 連結・単体受注

（単体受注高）　（単位：億円）

			2021年度 第2四半期実績 A	2022年度 第2四半期実績 B	2022年度 進捗率 B/D	前年実績との差異 B-A	2021年度 実績 C	2022年度 通期見通し D	前年実績との差異 D-C
建設事業	建築	国内	4,749	**3,845**	*38.1%*	△ 904	11,865	**10,100**	△ 1,765
		海外	8	**197**	-	188	13	-	△ 13
		計	4,757	**4,042**	*40.0%*	△ 715	11,878	**10,100**	△ 1,778
	土木	国内	1,710	**1,319**	*48.9%*	△ 391	3,213	**2,700**	△ 513
		海外	11	**39**	*9.8%*	27	20	**400**	379
		計	1,721	**1,358**	*43.8%*	△ 363	3,234	**3,100**	△ 134
	計	国内	6,460	**5,164**	*40.3%*	△ 1,296	15,078	**12,800**	△ 2,278
		海外	19	**236**	*59.0%*	216	34	**400**	365
		計	6,479	**5,400**	*40.9%*	△ 1,079	15,112	**13,200**	△ 1,912
不動産事業等			107	**232**	*66.4%*	124	229	**350**	120
合計			6,587	**5,632**	*41.6%*	△ 954	15,342	**13,550**	△ 1,792

（連結受注高）

建築事業			6,443	**6,442**	*43.2%*	△ 0	15,578	**14,900**	△ 678
土木事業			2,472	**2,090**	*45.9%*	△ 382	4,846	**4,550**	△ 296
不動産事業等			384	**502**	*52.9%*	117	1,038	**950**	△ 88
合計			9,300	**9,035**	*44.3%*	△ 265	21,463	**20,400**	△ 1,063

MAKE BEYOND つくるを拓く | 10

<u>受注高について</u>

- 上期の受注高は金額、進捗率ともに過年度並みの水準を確保しており、通期見通しについて従来の発表値を維持しております。
- 建築、土木ともに、引き続き生産キャパシティを勘案しつつ、採算性を重視した受注活動を展開してまいります。

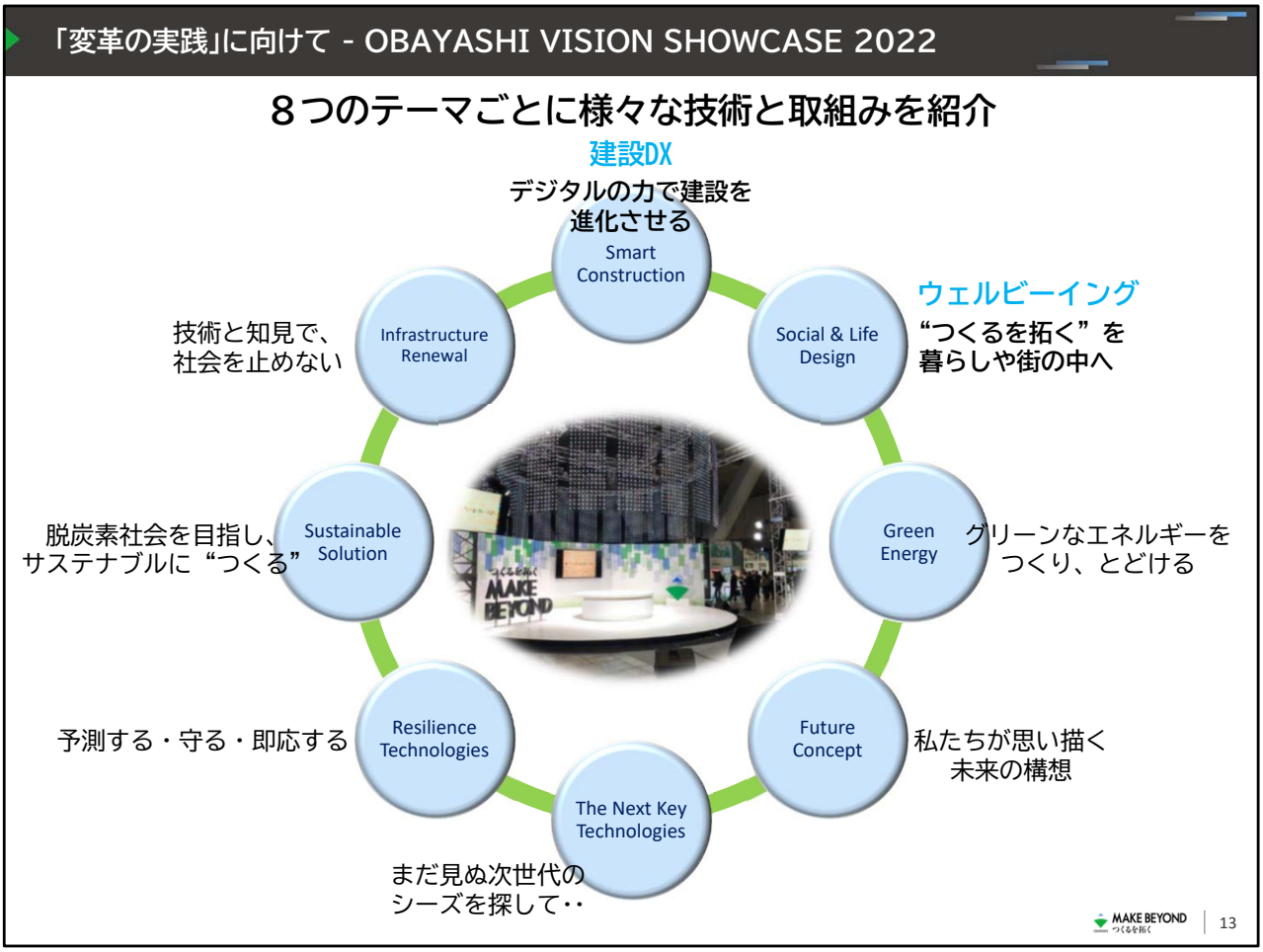
「変革の実践」に向けて

～技術とビジネスのイノベーションの進捗～

「変革の実践」に向けて- OBAYASHI VISION SHOWCASE 2022

昨年、大林組は創業130年という節目を迎え、「MAKE BEYOND つくるを拓く」というスローガンを発表しました。

当社グループの競争力の源泉である技術について、「つくるを拓く」に込めた想いとともに取り組みを進めております。その「現在地」と「これから向かう先」をご覧いただくことを目的として、大林グループ総合展示会『OBAYASHI VISION SHOWCASE 2022』を企画・開催しています。



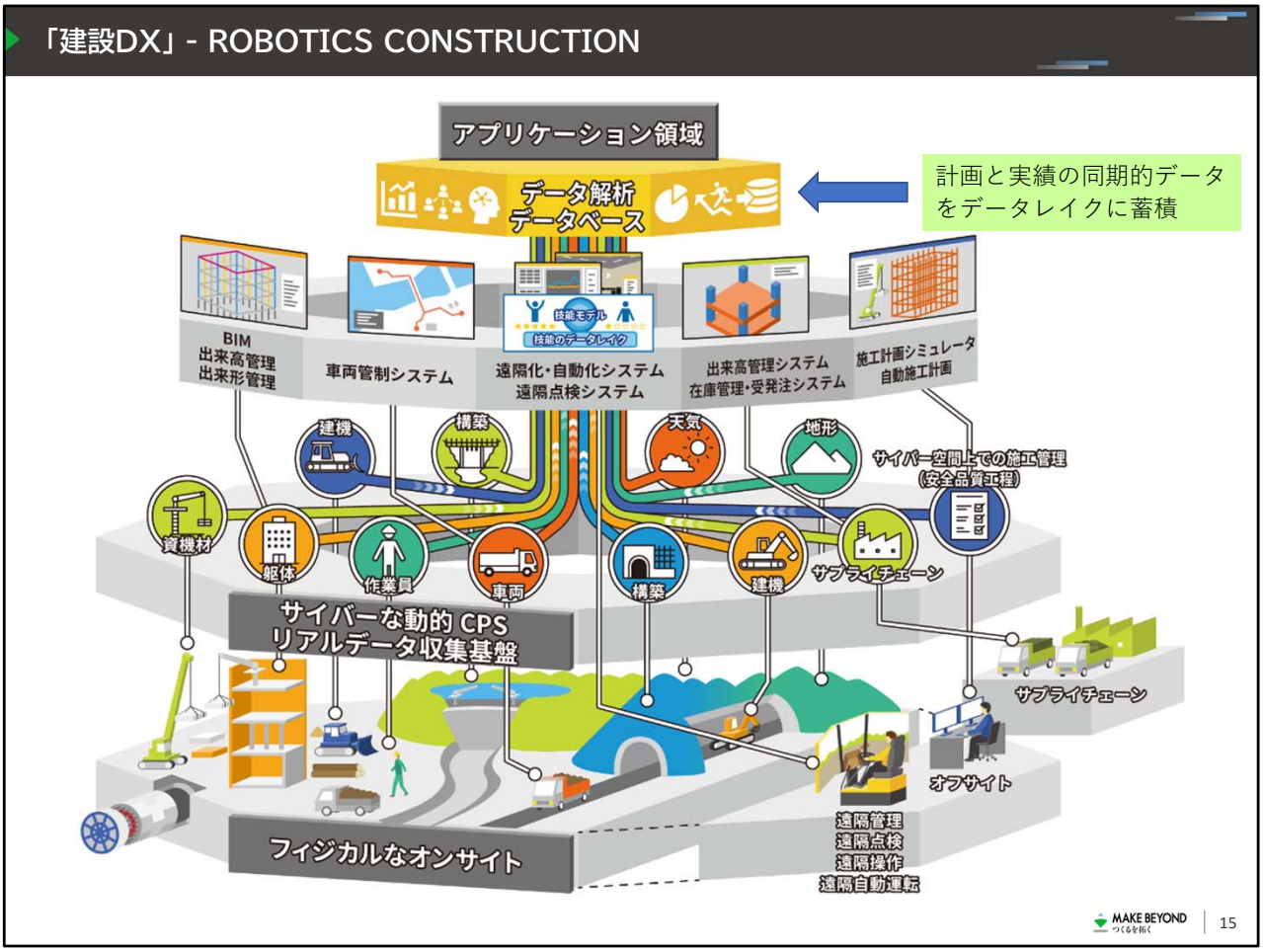
本展示会では、中計2022で注力分野とする「建設DX」や「ウェルビーイング」をはじめ、当社グループが手掛ける100種類の技術や取り組みを8つのテーマごとに取り上げ、パネルや模型の展示、トークイベントなど、趣向を凝らして分かりやすくご紹介しています。出来る限り多くの方々に当社グループの未来に向けた取り組みを知る機会としていただけるよう、オンラインによる開催も実施し、社外に向けて発信してまいります。

OBAYASHI VISION SHOWCASEでも取り上げている「建設DX」と「ウェルビーイング」について、次ページ以降でご紹介いたします。

<u>「建設DX」に関する取り組み</u>

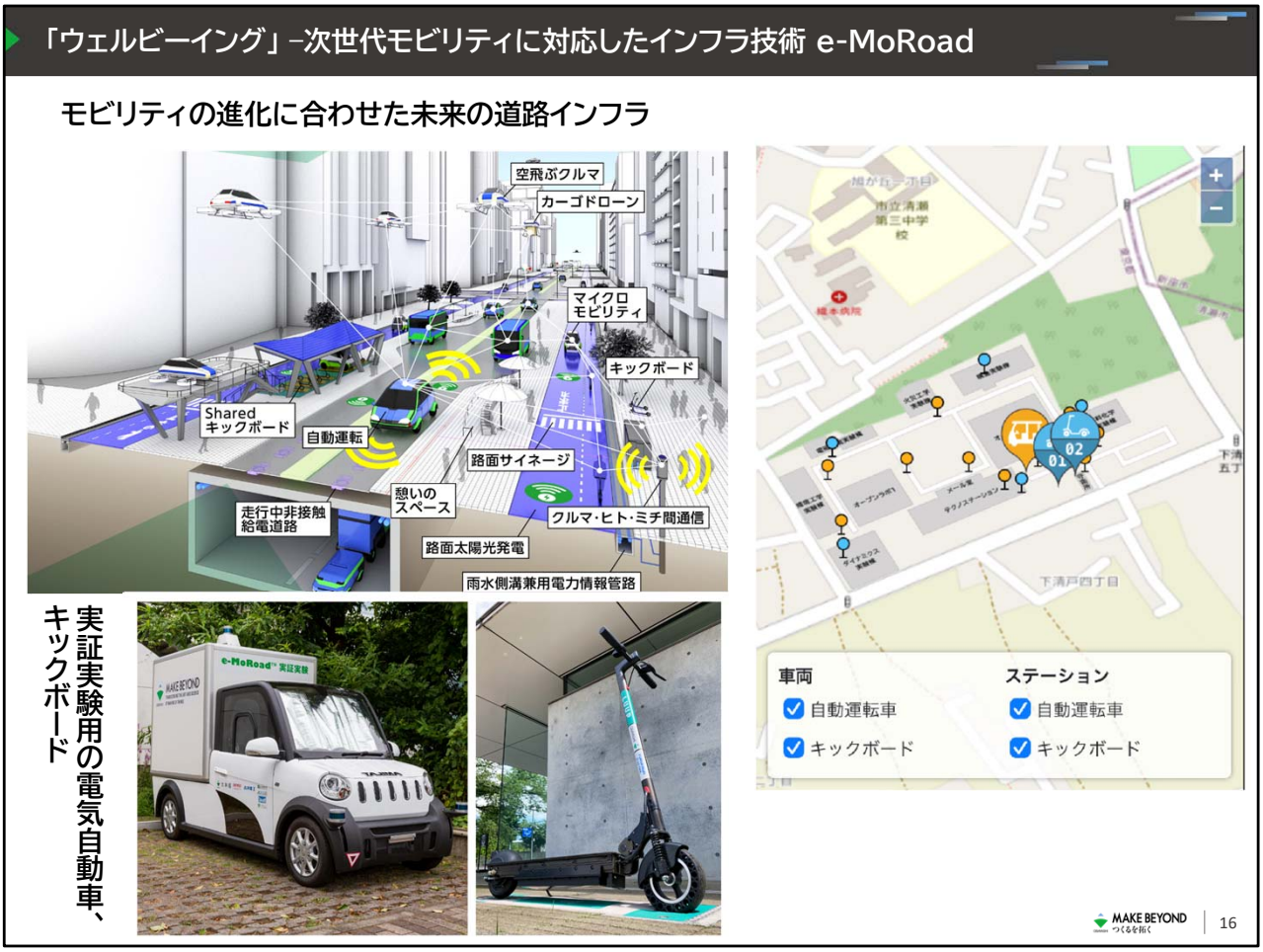
時間や場所など様々な制約を乗り越えることを可能にする施工技術「ロボティクスコンストラクション構想」について

- 本構想は、工事の施工に関する技能等の情報を蓄積するデータプラットフォームを開発し、サイバー空間を経由して現場とリアルタイムに接続することにより、人とロボットが役割を分担し、遠隔での施工や施工管理を可能とするものです。
- これにより、現役を退いた方、育児・介護中の方、あるいは時差のある他国にいる方など、日々現場で業務に携わることが難しい方を現地生産の呪縛から解放します。



<u>ロボティクスコンストラクション構想におけるデータ活用の流れ</u>

- これまでの現場でのデータ活用はBIM、CIMによる設計データの活用が中心でした。
- 今後はデータプラットフォームである現場デジタルツインから吸い上げられるリアルタイムのデータを活用し、施工計画から調達、施工、施工管理、さらには検査、支払い業務までの一貫したデータドリブンな施工フローを実現します。
- これらの建設DXの取り組みにより、持続可能な建設プロセスを実現し、お客様への提供価値の向上を目指します。



<u>ウェルビーイングに関する取り組み</u>

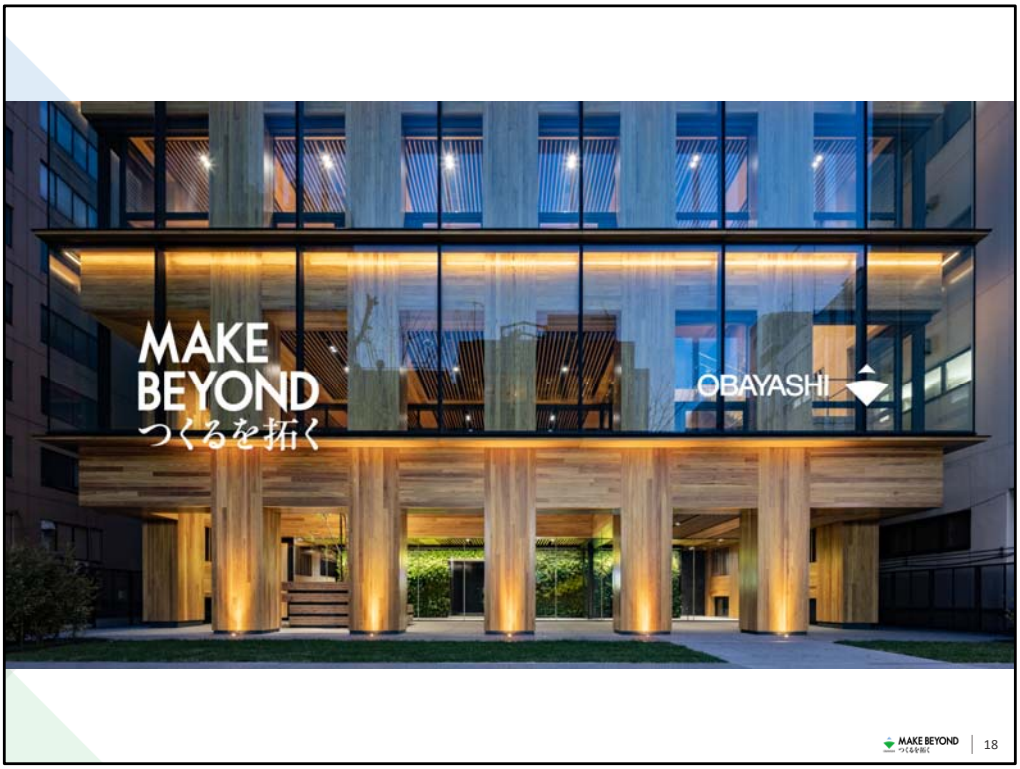
道路に関わるインフラ技術「e-MoRoad（イーモロード）」

- 走行中の非接触給電に対応した道路舗装や、クルマ・ヒト・ミチ通信のための電力・情報ネットワークなど、モビリティの急速な進化に対応するためのインフラ技術であり、自動運転車や電動キックボードなども活用しながら、当社の技術研究所や大阪・関西万博など様々なフィールドでの実証実験を実施・計画しております。
- 「e-MoRoad（イーモロード）」の実現のためには、技術開発と並行して標準規格や法対応などの制度的な整備も必要であり、自動車関連企業を含めた多様な社外関係者と幅広く協業しながら取り組みを進めています。

<u>ウェルビーイングに関する取り組み</u>

物流自動化プラットフォーム「PLiBOT（プライボット）」

- 当社が建設現場での実証を経て開発した自律作業ロボットによる新規事業です。
- 企業内物流の自動化・省力化ニーズにソリューションを提供するもので、自律作業ロボットAMRを統合制御したプラットフォームである「PLiBOT（プライボット）」と、エレベーター、シャッター、資材管理システムなどの顧客の既存設備を連携させ一元管理することで、初期投資を抑えながら柔軟性高く顧客の課題にきめ細かく対応することが可能です。
- 運搬だけでなく清掃や警備など多様なニーズに応えるべく、欧米のAMRメーカーとも提携しながら様々なタイプのロボットを用意し、顧客の課題に寄り添ったソリューションを提供します。



当社グループは、ブランドビジョン「MAKE BEYOND つくるを拓く」のもと、新たなものづくりに挑戦する企業文化を醸成しながら技術開発を進め、更なる成長を目指して力強い歩みを続けてまいります。